

瀋陽駐在員事務所



昼間



夜中

「真夜中に目が覚めると・・・」

3月3日午前3時、目が覚めると、外から「唸り声」のような音がする。何事かと思い、窓から外を眺めると、50メートルほど離れたビル工事現場に明かりが煌々と灯っている。コンクリートミキサー車数台が連なり、夜間作業の真っ最中だ。睡眠の妨げになるほどではないが、耳障りなことには変わりはない。もっと近くに住んでいる人は大丈夫だろうか？まったくもって迷惑な話である。瀋陽の建築スピードの速さの秘密の一端ここにある。単純に計算すると、

1日24時間フル稼働で「3倍」、重機と人手を「3倍」かけると、「9倍速」になる。11～2月は、厳寒期のため工事ができないため、1年で工事できるのは8か月。ゆえに「9倍x8/12=6倍」。すなわち日本の「6倍速」で工事が出来る計算になる。瀋陽滞在5年半、約30年分の変化を見たと言っては言い過ぎだろうか？

正司 毅

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室



「郷に入りては郷に従えとは言いますが」

先日、Apple社‘iPad’に関する商標登録についての裁判のニュースをご覧になったでしょうか？広東省恵州市の裁判でApple社の主張を退け、唯冠科技社の主張を認める判決が出ました。これによってiPadの販売が出来なくなるのではないか、という事で大きなニュースとなりました。その後上海ではApple社の主張を認める判決が出ており混乱を極めています。中国では商標権申請については、要件を満たしている限りは基本的に「早い者勝ち」になります。他国ではその企業の商品、ブランドと認知されていても中国では事情が異なるという事で、多くの有名企業が苦しんでいます。北海道の企業でも少なからず冒認出願（権利を不当に妨害する為の出願）の影響で中国大陸での活動に支障が出ている先もあります。お取引先で中国での販売・進出を考えているところがあれば、商標権の登録を検討いただければと思います。費用は日本円で10万円程度ですが、正式登録には2年くらいかかります。

今回のニュース、実は潮目の変わるきっかけとなる様な気がしています。全世界で大人気のApple製品は今や中国の若者にとってもステータスの象徴です。それが冒認出願によって販売出来なくなれば国民も黙っていないと思います。国際化著しい中国ですが、国際的なルールも統一される日はそう遠くないかも知れません。

中島 康成

ユジノサハリンスク駐在員事務所



「もったいない」という考え方

ロシア人に食事を招かれた時、料理のボリュームに圧倒されます。お客さんが、食べきれないくらいの料理を出してもてなすのが礼儀と考えているようです。レストランのコース料理も同様で、前菜の段階でおなか一杯になってしまうため、メイン料理を堪能するためには出てくる料理を全部食べてしまっはいけません。したがって、相当量の残飯が発生します。ロシア人の知人に、日本には「もったいない」という考え方が浸透しており、子供の頃食べ残しなどしたら親からしかられたものだど話をしたところ、「面白い考え方だけれど、僕はそんなことで自分の子供をしかったりはしない。」と言われました。「僕たちは69年間監獄の中で暮らしてきて（ソ連時代のこと？）、ずっと我慢を強いられてきた。ようやく豊かさを実感できるようになった今、食べ物については好きなだけ食べ、好きなだけ残すよう子供たちの自由にさせてあげたい。」とのことで、一般のロシア人もそう考えているようです。モノのない時代を経験した点では日本もロシアも同じだと思いますが、考え方はまったく違います。これは食べ物以外に対しても当てはまり、現在ロシア人の消費意欲は非常に旺盛で、品質の優れた日本の製品は特に人気があります。サハリンではスーパーマーケットの新店舗が増えており、日本製商品の取扱も増えています。エネルギー関係中心に豊かになったロシア人が、高価な日本製商品を購入していくのが目立ちます。ビジネスチャンスがあるのではと思われるお方は、是非当事務所にお声かけください。

「だけど今の子供たちが大人になった時は、時代や環境が変わって、もしかしたら彼らは日本人と同じような考え方になっているかもね。」先の友人は最後にこう言って笑っておりました。

* 写真は最近ユジノサハリンスク市内に新規オープンした商業施設

中川 文敏